

第 8 回南陽市教育委員会会議録

日時：令和 7 年 8 月 2 5 日（月）

午前 1 0 時 0 0 分～ 1 1 時 5 0 分

場所：南陽市役所 庁議室

出席者

一 番	山 岸 俊 道	二 番	鎌 田 一 郎
三 番	池 田 めぐみ（欠席）	四 番	相 澤 裕 子

説明のため出席した職員

管理課長	鈴 木 博 明	学校教育課長	安 達 心
社会教育課長	田 中 聡	史跡文化主幹	角 田 朋 行
管理課長補佐	金 子 ちあき	学校教育課長補佐	志 賀 俊 介
学校教育課指導係長	佐 藤 由紀子	学校教育課指導主査	高 橋 栄 介
職務のため出席した職員	佐 藤 光 緒		

議 事 日 程

開 会

- 日程第 1 会議録署名委員の指名
- 日程第 2 会期の決定
- 日程第 3 承第 1 号 令和 7 年度教育委員会事務事業の点検評価報告書
令和 6 年度実績分の議会提出及び公表について
- 日程第 4 議第 3 4 号 令和 8 年度使用教科用図書の採択について
- 日程第 5 協 議 通学区域（学区）変更について
- 日程第 6 諸般の報告
- 日程第 7 業務報告
 - （1）管理課
 - （2）学校教育課
 - （3）社会教育課

そ の 他

（1）連絡事項

次回定例教育委員会 令和 7 年 9 月 2 5 日（木）午前 1 0 時

※閉会後、令和 7 年度教育委員会表彰者選考委員会を開催

閉 会

開 会

日程第1 会議録署名委員の指名

教育長が山岸俊道委員と相澤裕子委員を指名

日程第2 会期の決定

教育長が会期を本日1日限りとすることを決定

日程第3 承第1号 令和7年度教育委員会事務事業の点検評価報告書 令和6年度実績分の議会提出及び公表について

- ・学校教育課長が、報告書の議会提出と公表について説明
- ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づき、教育委員会事務事業の点検評価報告書（令和6年度実績分）の議会への提出と公表について承認を求める。
- ・事業の詳細について助言や指導があれば、個別でも良いのでお願いしたい。

報告書に対する意見の出し方等について

鎌田委員

- ・この場で質疑する内容について確認したい。
- ・事業内容についての指摘事項はいつ伝えと良いか。

⇒学校教育課長：前者について、主に議会提出と公表についての質疑となる。

後者について、個別または業務報告の場でお願いしたい。

教育長

- ・事業内容については業務報告の場での質疑で大丈夫か再確認したい。

⇒学校教育課長：大丈夫だが、承認できない内容があればこの場でお願いしたい。

鎌田委員

- ・付帯事項として指摘したい事項を踏まえての承認だと捉えている。

相澤委員

- ・数多くの事業でA評価となっている中で、「学校施設の営繕計画の適切な実施」がB評価となっている理由をお聞きしたい。

⇒管理課長：自己評価において、予定していた成果であったためB評価とした。

相澤委員

- ・「就学前言語治療等事業」について、相談依頼枠40件に対し、実質対応できた件数が28件だったが、残り12件の詳細を確認したい。

⇒**学校教育課長**：今年度への持ち越しや他機関で解決済みの案件等様々である。

山岸委員

- ・外部評価委員から意見を頂戴した後に内容を修正することはできないため、資料を外部評価委員へ提示する前に教育委員会で意見交換すべきではないか。

鎌田委員

- ・山岸委員の意見と同様で、事前に意見交換すべきだと思う。
- ・後ほどの業務報告ではなく、承第1号の質疑応答の場で意見を出し、付帯事項も含めて承認した方が良いのではないか。

教育長

- ・来年度からは、外部評価委員からの評価前に、教育委員会で意見交換する方向で検討するということで良いか確認したい。

⇒**学校教育課長**：今年度は承第1号の質疑応答の場で意見を出していただきたい。

来年度以降については、議会へ提出する時期が変更となる可能性も考慮しながら、前向きに検討したいと考えている。

相澤委員

- ・外部評価委員からの評価後に教育委員会で承認するという今までのやり方を変えていく必要があるのではないか。

外部評価委員について

鎌田委員

- ・外部評価委員は学校の現場視察や体験を踏まえて評価しているか確認したい。

⇒**学校教育課長**：野口委員は、公開研究発表会等で現場に足を運んでいる。

佐藤委員は現場には行っていないと認識しているが、南陽市の教育のことをよく理解していると感じている。

鎌田委員

- ・学校現場での視察や体験を踏まえて、外部評価委員には評価してもらいたい。

⇒**学校教育課長**：その旨を外部評価委員にお願いしていく。

事業の目標について

鎌田委員

- ・「きらきら・E K U B Oキッズ事業」「学校・家庭・地域の連携協働推進活動」の目標が、事業の目標ではなく事業を行う側の目標になっているのではないかな。
- ・事業点検評価の形骸化の可能性もあるため、目標の吟味をしていただきたい。

⇒**社会教育課長**：指摘事項について、次年度に向けて検討する。

山岸委員

- ・「事業の目的及び概要」に事業の目的が記載されているため、「事業名等」の目標（達成指標）については、目標ではなく達成指標という表現の方が良いのではないかな。

鎌田委員

- ・「事業の目的及び概要」の表現についても、事業を行う側の視点になっている箇所があると思う。
- ・事業の基礎となる大きな目標を立てるべきではないかな。

⇒**学校教育課長**：事業名、大きな目標、事業の目的、達成指標という構成の方が良いと思うので、来年度に向けて改善する。

⇒**教育長**：今年度は、表現はこのままにして教育委員会で出た意見を付け加える。

須藤克三賞開催事業の評価について

鎌田委員

- ・野口委員より、須藤克三賞の出品作品は国語の指導要領との関連で授業でも取り扱うべきという昨年度と類似する指摘があったが、詳細をお聞きしたい。

⇒**学校教育課長**：国語の先生が児童生徒の表現に対して指導を行い、学校と教育委員会の連携を深め児童生徒の成長を促したいという思いが野口委員にはあるように感じている。

鎌田委員

- ・無理に学校の授業と関連付けようとするとかえって問題になると思っている。
- ・須藤克三賞開催事業の位置付けについて、授業とは関係なく子供たちの文化芸術の力を高めるための事業の1つであると明確にした方が良いと思う。

⇒**学校教育課長**：来年度は野口委員に事業の狙いや目的が伝わるよう努める。

鎌田委員

- ・前年踏襲ではなく、高校生や一般の募集に広げることで授業との関連も問題なくなり事業の変化にも繋がるのではないかと。
- ・須藤克三賞の学校賞は不要ではないかという佐藤委員の指摘について同意する。
- ・学校賞の規定や選考基準は明確に定められており、入賞数を点数化している。

⇒**学校教育課長**：佐藤委員は、学校の負担が大きいのではないかという視点から、学校賞を疑問視している。

理念に基づいて学校賞が不要かどうか議論する必要があると考えている。

鎌田委員

- ・個人への評価があれば十分であり、学校賞は不要であると考えている。

⇒**学校教育課長**：鎌田委員が出席する須藤克三賞に関する会議の際に議論したい。

就学前の教育に対する評価について

相澤委員

- ・野口委員の評価に、就学前の教育についての記載がなかったが、直接言及はあったか確認したい。

⇒**学校教育課長**：野口委員より、幼児教育に関わる事業を非常に評価していただいたと同時に、中学校までの縦の連携や、乳幼児からの教育についての助言をいただいた。

取り組み始めたこと自体を評価していただき、南陽市は一生懸命頑張っているという認識が野口委員にはあると思われる。

心を育む教育支援事業等について

鎌田委員

- ・「心を育む教育支援事業」の目標について、不登校対策が集団生活への適応能力を高めるための対策となっているが、事業を行う側の枠にはめているようで違和感がある。

⇒**学校教育課長**：自立と社会参加を大きな目標とし、安心できる居場所を提供するという趣旨に改めたい。

鎌田委員

- ・集団生活への適応に加え、自立という文言が必要だと思う。

相澤委員

- ・佐藤委員の評価でも、社会的自立について触れている。

鎌田委員

- ・「えくぼ絵画展開催事業」について、ニーズの変化が増加ではなく横ばいとなっているが、対象人数の減少によるものか確認したい。

⇒史跡文化主幹：事業の必要性、重要性はあると捉えている。

環境的に昨年度と大きく変わっていないため、横ばいとしている。

⇒教育長：元々ニーズがあり、今年度も高いニーズは変わらないことを確認

(付帯事項を踏まえて原案のとおり承認)

日程第4 議第34号 令和8年度使用教科用図書の採択について

- ・学校教育課長が、使用教科用図書の採択について説明
- ・東南置賜地区教科用図書採択協議会の協議結果に基づき、令和5年度採択の小学校の教科書、令和6年度採択の中学校の教科書について、令和8年度も採択したい。
- ・義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条に基づき採択する。

(原案のとおり承認)

日程第5 協議 通学区域（学区）変更について

- ・学校教育課長が別紙資料により、通学区域（学区）の指定変更者等について説明

(原案のとおり承認)

日程第6 諸般の報告

教育長より報告

- ・全国学力学習状況調査の結果について

小中学校の授業改善のための調査であり、今年度は4月17日に実施されたことを報告

小学校6年生と中学校3年生の国語・算数・数学で全国平均を下回り、特に算数と数学は近年と比較しても全国平均との差が大きかった。

調査で学力の全てを判断することはできないが、各学校と教育委員会で調査結果を分析し授業の改善点を探っていく。

・山形県都市教育長会総会について

7月29日に天童市で行われたことを報告

全国都市教育長会総会や東北都市教育長会協議会の報告、今年度の事業と来年度以降の役員の確認等が行われたことを報告

須貝県教育長との懇談会では、「確かな学力の育成」・「不登校児童生徒」・「教職員の働き方改革」・「中学校の部活動改革」・「公立高校の入学選抜試験」・「児童生徒に対する盗撮等の性暴力」・「熱中症の予防」等山形県の現状と課題について話題に挙がった。

・第2回南陽市招集小・中学校長会議について

8月18日に行われたことを報告

2学期の子供たちの様子を見守り、夏休みの宿題が未提出の子供に対してやる気を促すような指導を心掛けてほしい。

熱中症予防と交通事故防止について注意喚起するよう依頼

戦後80年を機に、平和や日本国憲法等について考え、講話等子供たちが触れる機会を設けてほしい。

学力向上について、教員不足やSNSの影響等学力低下を招く要因がある中で、外発的動機付けではなく内発的動機付けによる指導や、全国学力学習状況調査を受けた授業改善が必要である。

日程第7 業務報告

管理課長、学校教育課長、社会教育課長、史跡文化主幹より報告

各課の議案書資料に基づき、業務報告を行った。

全国学力学習状況調査（学力テスト）について

鎌田委員

・学力テストの結果をどう捉えているか確認したい。

⇒学校教育課指導係長：危機的な状況だと認識している。

授業改善を促すだけでなく、教育研究所との連携や先生方との対話を通じて改善したいと考えている。

鎌田委員

- ・テストの結果を受けて、同じ問題を再度解き直し理解できるようになれば、アフターフォローとしては十分ではないかと思う。
- ・子供たちの社会性や倫理観、規範意識等学力以外の要素を育てることの方がむしろ重要ではないかと思う。

相澤委員

- ・学力テストの結果を踏まえ、低学年への手厚い教育が必要ではないか考える。
- ・0歳児からの教育となると保育園や幼稚園も関わってくるため、子供たちの自己肯定感を高めやる気を出してもらうことが重要だと思う。

鎌田委員

- ・子供たちの学習に対する捉え方は、肯定的なものと否定的なもので二極化しているのか。

⇒学校教育課指導係長：調査結果だけでは一概に言えないが、否定的な捉え方は前回よりも若干増加している。

鎌田委員

- ・学力低下と働き方改革は関連性があるのか確認したい。
- ・丁寧な個別指導を受ける時間が以前よりも減少していることが学力低下の一因ではないかと懸念している。

相澤委員

- ・学校の先生方だけではなく地域の人々にも協力してもらう等対策する必要があるのではないか。

⇒教育長：いただいた意見を今後可能な範囲で取り入れたいと考えている。

⇒学校教育課長：学力テストの結果を踏まえた授業づくりが重要である。

NRTテストの結果を受け、特に低学年に対する個別指導が課題だと考えている。地域の人々を含めた市全体での教育支援体制の構築と先生方への指導に力を入れていきたい。

相澤委員

- ・子供たちへ接する際、子供たち1人1人を褒めること、子供たちの意見を尊重することを先生方にはお願いしたい。

鎌田委員

- ・「算数が好きだが分からない」等と正直に言えることは、これから生きていく上で重要な力だと思うので大事にしてほしい。

プールについて

相澤委員

- ・学校の夏休み後にプールの記録会は行われているのか。

⇒**管理課長**：夏休み前にプール授業を終える学校がほとんどで、夏休み明けに記録会を行っている学校はほぼないと思われる。

鎌田委員

- ・熱中症アラートによりプールが中止となった日が多くあったのか確認したい。

⇒**管理課長**：夏休み中は、ほぼ毎日午後からは中止だった。

⇒**学校教育課長**：授業中は、2時間目くらいまでに行うよう努めていたが、3時間目以降はできないことが多かったと聞いている。

その他（１）連絡事項

次回定例教育委員会について管理課長補佐より連絡

第26回さわやかワインマラソン大会について

- ・社会教育課長より、10月13日に開催される第26回さわやかワインマラソン大会について説明
- ・開会式等を省略し、昨年度同様ハーフマラソンも予定されている。
- ・例年どおり教育委員の方に役員就任を依頼するが、欠席の際は沿道での応援をお願いしたい。
- ・教育委員の方へ、後日送付する大会プログラムの確認を依頼した。

赤湯幼稚園訪問について

- ・学校教育課指導係長より、9月25日に予定されている赤湯幼稚園訪問について説明
- ・園児との交流はないが、保育や特別支援担当の先生等と話したり帰りの会を見学する時間が設けられる。

閉 会

教育長が令和7年8月19日付け南陽市教育委員会告示第13号をもって招集した第8回南陽市定例教育委員会の閉会を宣言